

図書館カレンダー

1月	9 土	
	10 日	
	11 祝	休館 (表郷・東)
	12 火	休館 (全館)
	13 水	
	14 木	
	15 金	
	16 土	▷子ども向け上映会 『うっかりペネロペ おもしろいこと大好き編』 りづらん 13:30~14:10
	17 日	
	18 月	休館 (りづらん・大信)
	19 火	休館 (表郷・東)
	20 水	▷大人向け上映会 『みをつくし料理帖』(1~2話) りづらん 13:30~14:50
	21 木	
	22 金	
	23 土	
	24 日	
	25 月	休館 (りづらん・大信)
	26 火	休館 (表郷・東)
	27 水	
	28 木	
	29 金	
	30 土	
	31 日	休館 (東)
2月	1 月	休館 (りづらん・大信)
	2 火	休館 (表郷・東)
	3 水	休館 (りづらん・表郷・大信)
	4 木	
	5 金	
	6 土	▷大人向け上映会 『Mの悲劇』(1話) りづらん 13:30~14:20
	7 日	休館 (大信)
	8 月	休館 (りづらん・大信)

【各図書館の問い合わせ先／開館時間など】
りづらん ☎23250/10:00~19:00
 ※土・日・祝日の開館 10:00~17:00
 ※エントランスの開館 9:00~21:00
表郷図書館 ☎24784/10:00~18:00
大信図書館 ☎463614/10:00~18:00
東図書館 ☎341130/10:00~18:00

※最新の情報は、図書館にお問い合わせいただくか、ホームページや館内掲示板をご確認ください。



図書館からのお知らせ

《館内の換気にご協力をお願いします》

図書館では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定期的に窓を開け、空気を入れ替えています。室温が低い場合がありますので、暖かい服装での来館をお願いします。

《図書館スタンプラリー開催中》

りづらん・表郷・大信・東図書館に、オリジナルスタンプを設置しています。市内の図書館を巡り、それぞれの施設が持つ魅力を発見してみてください。

今月のテーマ展示 ※12月・1月共通

大人向け



新型コロナウイルス感染症の影響で、不安と混乱が多かった昨年。先月に続き今月も、新年を明るく気持ちでスタートできるようにタイトルに「幸」と「福」の文字が入った本を集めました。

子ども向け



さむ〜い冬は何をしようかな？ 外で雪遊びをしたり、家でなぞなぞやトランプをしたり、おいしい鍋料理を食べたり…楽しいことがたくさん！もちろん絵本の中も、楽しい冬がいっぱいです！

※ホームページでもオススメの本を紹介しています。

おすすめ雑誌



Hanako
《東図書館》



小説すばる
《表郷図書館》



週刊少年サンデー
《大信図書館》

おすすめ新刊

《一般図書》

アートディレクター／デザイナーのラフスケッチ188
一流クリエイターの思考と発想の実例集
エムディエヌコーポレーション

第一線で活躍するデザイナーが、作品を完成させるまでの過程をかいま見れる一冊です。印刷所とのやりとりなど、創作の裏話も紹介しています。

《児童図書》

お蚕さんから糸と綿と
大西 暢夫

今では少なくなった「養蚕」のことがよく分かる一冊です。蚕を育て、糸や綿をとる方法を写真で分かりやすく紹介しています。

小峰城よもやま話

第十話
白河藩の正月と食事

新しい一年のはじまり、正月は、現在でも特別な期間として扱われています。食事についても同様で、おせち料理やお雑煮など、正月ならではの食文化があります。

今回は「御食膳御規定」(天理大学附属天理図書館蔵)や「奥州白川風俗問答」(「白河市史 九」所収)などの史料から、藩主や藩士などの正月の食事や文化を紹介します。

《藩主の食事》

藩主の食事を記した史料の正月元日ははじめには「大福干入」と記されています。これは「だいふく」ではなく「おおぶく」と読むと考えられます。若水(元旦にくむ水)を使って立てたお茶のことで、新しい年の災いははらうものだとされています。

大福茶の後「御高盛」・「二御膳」・「三御膳」の記載があります。

「三御膳」には「御重看」が含まれており、「二重の箱に」数の子と「酢牛蒡」が、それぞれ詰められていました。それ以外に、二汁五菜の「御祝御膳」が、時間を変えて二度出されるなど、藩主の年始の食事に見合った、非常に豪華なものだった。

たようです。また、雑煮は餅やいちよう切りにした大根、焼き豆腐、青菜、里芋、薄く削ったかつお節が入ったものでした。

《藩士・町人の食事》
藩士は、数の子や田作、牛蒡煮豆などを重箱に入れた料理を用意しました。一方、町人は藩士と同じものを食べたようですが、ほとんどの家では重箱に詰めることはせず、一部の裕福な家だけが重箱を用意していました。また、雑煮は江戸と同様に、餅やすずな、大根、人参などが入ったものを、藩士も町人も食べていたようです。



北尾重政「絵本世都之時」より
若水くみの様子
(国立国会図書館蔵)

文化財課 ☎27310

洪沢栄一×松平定信
南湖を彩る系譜

第一回
松平定信を
敬愛した洪沢栄一

日本資本主義の父といわれ、3年後には新一万円札の肖像画になる予定の洪沢栄一が、松平定信をあつく敬愛していたことはあまり知られていません。

白河藩主だった定信は、30歳の天明7年(1787)6月に、老中として江戸に上り、後に寛政の改革と呼ばれる幕政改革を行いました。

その際に、国元の白河を離れることになり、家臣たちに肖像画を遺しました。

これは定信が自ら描いた自画像で、白河を留守にする間、この自画像を定信の分身と思ひ、今まで通り忠勤に励んでほしいという願いが込められています。

この逸話は、定信の尊大さを物語っているようにも感じられますが、決してそうではなく、八代將軍徳川吉宗の孫として生まれ、將軍家の血筋に対する矜持と、徳川家の繁栄や幕府の存続を人一倍強く願う熱意の現れでした。それほど定信は徳川家への思いが大きく、老中としての覚悟と責任感を如実に示すものでした。



青年期の洪沢栄一
(洪沢史料館所蔵)

中山義秀記念文学館 館長
植村美洋